第 432 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

丁寧な観察力の修練 ～ 志を継承 ～

2026 年 9 月 30 日『順天堂大学さくらキャンパス』(千葉県印西市)での【『文化の中の健康』医学部 1 年生(137 名)講義『がん哲学』】、 10 月 1 日は『順天堂大学浦安日の出キャンパス』での【『医療概論 ― 人体の機能と構造』健康データサイエンス学部 1 年生(約 100 人)講義『病理･がん哲学』】に赴いた。 講義では【『他人の苦痛に対する思いやり』は、医学、医療の根本である。『医療者の２つの使命』（１）『学問的、科学的な責任』で、病気を診断・治療する （２）『人間的な責任』で、手をさしのべる】と語った。 真摯な学生の姿勢には、大いに感動した。 複数の質問もあり 大変、有意義な充実した貴重な『２連チャン症候群 講義』となった。

筆者は、2026 年 10 月 2 日は 『病理医』として 定例の『病理組織診断業務』を担当した。『顕微鏡を見て病気を診断する 丁寧な観察力の修練の場』でもある。『病理医』は『形態』＆『起源』＆『進展』などを追求する医師である。 まさに、『風貌を診て、心まで読む ＝ 人生の根幹を追求する分野』でもある。

【『癌細胞の病理と人間社会の病理の類似性 ＝ 『がんは生物学の法則』＋『哲学は人間学の法則』】が、2001 年の『がん哲学』の提唱の原点となった。『哲学が心の支え』となろう。 そして、2008 年 1 月 順天堂大学病院の診察室で、『病理医』が 無料の【『病気』であっても『病人』ではない社会の構築】を目指して『がん哲学外来』が創設された。 その年(2008 年)の秋には、病院外で『がん哲学外来・カフェ』を、横浜と東久留米の『CAJ』で開始する機会が与えられた。 現在は、全国で展開されている。

1932 年に創立された新渡戸記念中野総合病院(初代理事長 新渡戸稲造:1862-1933)で、2019 年 4 月 設立された『新渡戸稲造記念センター』でも『がん哲学外来』が開設された。【『新渡戸稲造記念センター』は、新渡戸稲造博士の志こころざしを 日本の国内外へ広め、実践する拠点となります。『新渡戸稲造記念センター』のセンター長には、新渡戸稲造博士の専門家として本邦の第一人者で、新渡戸博士の志を継承して活躍されている樋野興夫先生が就任されました。】と 心温まる励ましの紹介がされている。 ただただ感謝である。 涙無くして語れない。

今回、『われ 21 世紀の新渡戸とならん』(2003 年 11 月 10 日)(画像)が、鮮明に想い出された。 まさに、『病理医よ 大志を抱け！』の実践であろう。


われ21世紀の新渡戸とならん
樋野興夫著
樋野興夫
新渡戸稲造
e-grape